

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 2 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200221		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地	広島市安佐南区川内1丁目22-55 (電話) 082-830-0005		
自己評価作成日	平成27年1月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200221-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年2月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>出来る限りご本人の言葉を汲み取り、即実践を心掛けています。又、入居者、職員の関係が介護する側、される側だけの関係にならないよう、ご本人の「一人になりたい時間」や、「その方のこだわり」を大切にしたり、過度な管理を省くなど、近所付き合いの関係を目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>『その人のこだわりにこだわる』『明日より今日』という目標を掲げ、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を実現するための支援を実践しており、利用者の話から、微かな手がかりをもとに、利用者とともに出身地の墓地を探し当て墓参りを実現する等、一度は途切れた関係性の再構築を実現するなど、好事例が多数認められる。行政機関及び地域住民との関係も積極的に構築しており、認知症教室の開催や利用者以外の介護の相談にも応じるなど、地域の介護の拠り所としての役割も発揮している。また、近接する他法人の介護施設との連携にも努めており、職員を相互に派遣し研修を行ったり、三施設間で防災協定の締結に向け協議を進めている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎週月曜日の朝礼時に管理者と職員が一緒に理念の唱和を行っている。職員会議ではこれまでのみでの出来事を振り返る機会を設け、職員同士で共有している。	理念を実現するための目標を、平成24年に策定し、職員会議等で理念と共に立ち返る基盤とし、利用者の自立した生活の実現に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での認知症講座を毎月行い、お互いに相談し、支援し合っている。清掃活動やお祭りなどの行事にも参加しており、普段からもスーパーでの買い物や散歩の時などに会話をする等交流がある。地域の方が犬の散歩中に寄って下さることもある。	町内会の新年会での施設紹介、認知症講座の開催、利用者と共に町内会行事への参加等、地域とともに歩む施設としての取り組みを積極的に行っている。また、近隣住民からの農作物や旅先からの土産物の差し入れなど、日常的に周辺住民が施設を訪れる等の関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人や学生向けに認知症講座を行い、認知症の人への理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回10名近くの地域の方に参加頂いており、入居者の様子や行事、出来事などの情報交換を行っている。	地域住民の出席者は、町内会長・副会長、老人会会長、民生委員にとどまらず、一般の地域住民の参加も得て、施設の運営に関する報告、地域の関係者からの意見聴取や相談等、積極的に話し合われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市からの依頼で講座を開いたり、地域で暮らす高齢者の相談を頂く度にケアの検討や施設紹介等を行っている。	行政からの要請による認知症講座の開催や、地域の高齢者の個別相談に応じる等、市の担当部署との関係づくりに努めている。また、利用者が自宅に帰る方法等を地域包括支援センターに相談し、近隣住民の協力を得る等、行政との連携が利用者の生活に好影響を与えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>外部研修を受けた者が施設内研修を行う事で意識向上に努めていると共に、適宜話し合いを行い身体拘束についての確認をしている。外に出る方を止めることなく一緒に歩いたり、抑制しない体制を整備している。</p>	<p>外部研修受講者が施設内研修を実施することで、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、「玄関の施錠をしない」等の外形的な項目にとどまらず、「その声掛けは抑制につながるのではないかな」等、日常業務のなかでの具体例を話し合い、理解を更に深めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修を受けた者が施設内研修を行う事で意識向上に努めていると共に、適宜話し合いを行っている。入居者に対しての表情や言葉遣い等、日頃の接し方について振り返る機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について施設内研修を行い、理解の向上を図っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時だけでなく適宜、計画作成担当者と共にご家族に説明し、納得していただく努力をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族からの意見は、いただいたその時に解決を図るよう努めている。その声を元にご家族に毎月近況報告をしている。運営推進会議でも地域の方に報告をしている。</p>	<p>毎年、利用者家族との食事会を実施し、どんな職員が支援に当たっているかの理解を深め、家族が施設を来訪した際に、意見が出しやすい関係づくりに努めている。また、契約時には、行政機関の苦情申し出先も重要事項説明書に明記し、説明している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	職員会議以外でも随時話し合うことができ、反映している。	介護現場で必要とする備品の購入や、設備の改善等、職員は活発に提案し、施設運営に反映している。また、職員の勤務シフトについて、可能な限り「連休を組み込む」「夜勤後の勤務について負担を軽減する」等、管理者も働きやすい職場づくりに努めている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	就業規則のファイルをスタッフルームに置き、体制などをわかりやすく公表している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	ケアについてはOJTを通して技術の向上に努めている。又、外部研修の案内を随時閲覧できるようにし、希望者が参加しやすいようにしている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	他施設との交流会を実施し、意見交換等を行っている。他施設の職員の実習を受け入れたり、学生などの実習も積極的に受け入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	ご本人のお話をしっかりと聴き、要望に応えている。言われたことを実践したり、行動を共にしたりすることで、頼ってもらえる存在になれるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族のお話をしっかりと聴き、要望に 応えている。入居者の言葉や表情、行動 などをこまめにお伝えし、今後の生活に ついて一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族からのニーズを何度も確認している。生活面だけでなく、健康面でも必要であれば訪問マッサージや訪問歯科など、他のサービスの利用も含め、相談しながらサービス内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する側される側ではなく、時間や空間を共有する者同士として、持ちつ持たれつ の関係を築き、お互いに助け合っている。立ち位置、姿勢、空気それぞれを意識し、相手との距離感から物事を進めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族のニーズとご本人のニーズのすり合わせをしっかりと行い、情報共有をしたりその都度話し合ったりしている。ご家族に相談したり協力を求めながら、一緒にご本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	住み慣れた地域に出向いたり、家に帰ったりしている。近所の方が施設にいられたり一緒に外出などもしてくださっている。	事業所の理念に基づき、家族や近隣住民とともに、自宅に帰ったりなじみの場所への外出等を支援している。また、利用者の話から、微かな手がかりをもとに、利用者とともに出身地の墓地を探し当て墓参りを実現する等、一度は途切れた関係性の再構築も実現している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係には過度に介入せず、見守ることでそれぞれの関係が構築するのを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても、入院先にお見舞いに行ったり、退院後の施設の紹介などを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉で伝えられる方には希望など思いを聞き、意思疎通の難しい方は、ご本人の表情をみたり、ご本人の立場に立って考えることで、本人本位の生活の在り方を検討している。	職員が利用者の「人生史」を理解し、利用者が「これからどう生きていきたいか」を考え支援することにより、本人本位の生活を実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	「人生史」を作成し、ご本人のこれまでの生活を知ること、大切にしてくられたことやこだわり、習慣や人間関係等を知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の思いを優先し、一人でできることは一人でしていただいている。雨が降っていても散歩をしたり、その方のその時の気分に合わせて行動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3か月ごとにカンファレンスを開き、都合がつけばご家族にも参加していただいている。話し合ったうえで介護計画書を作成している。</p>	<p>カンファレンス前にあらかじめ、全職員がモニタリングシートに意見を記入して、介護計画の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の介護記録のほかに、気づきを記入するノートを作成し、ケアの提案や実践について職員間で共有できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族の協力のもと、自宅から通われたり、ご家族が施設に泊まれたりと柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の地図を掲示して、病院やスーパーの位置がわかるようにしたり、散歩の際はお祭りのポスターなど地域の行事の案内を一緒に観るようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族、ドクター、施設職員の3者で話し合いの場を設け、その都度ニーズを確認している。</p>	<p>協力医やかかりつけ医を、必要に応じ受診できるよう支援している。職員が付き添い、医療機関を受診した場合には、その結果をご家族に遅滞なく電話で連絡し、受診結果の共有に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>現在看護師は在中しておらず、主治医のクリニック看護師と連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院期間中も頻回にお見舞いに通い、看護師などからも情報を聞いている。又、ご家族の意見も考慮しながら退院日を決めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に終末期について施設としてできるときの説明を行い、実際に重度化したときに再度説明すると共に、ご本人・ご家族の意向を伺い、方針を一緒に決めている。</p>	<p>契約時には、終末期に施設で対応可能なことや対応できないことを説明し、利用者および家族との関係性を築く中で、終末期の意向を汲み取り、方針として共有している。また、家族からの看取りに関する質問や利用者の様子に変化があった際に、再度終末期の方針を確認し、利用者や家族の想いの変化に対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時の対処方法など、実践力が身に付くように訓練として実際に動きながら研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回、消防訓練と避難訓練を行っている。</p>	<p>年に2回の消防避難訓練を実施している。消防署とは連携が取れており、万一の火災発生の際の、消防車の停車位置なども話し合われている。また、町内会や近隣3介護保険施設との災害協定締結の協議が進められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	同性介助を基本とし、相手の表情や言葉で担当者を変更して対応している。	トイレの鍵が自分でかけられない利用者がトイレを使用する際には、職員が使用中の札をさりげなくかけたり、利用者の排泄のサインを認めトイレに誘導する際にも、何かの行為のついでにトイレへお誘いする等、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活での入居者との会話を大切に、会話の中で出てきたキーワードをもとに思いの実現を図っている。自分で決めることが難しい方には、決めやすいようにいくつか選択肢などを提示して働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大切に、過ごしたい場所ややりたいことなど、それぞれの思いを優先している。時間にとらわれず、食事等も流動的に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着脱の介助がしやすい服ではなく、ご本人の嗜好に合わせて着る服を用意していただいている。髪分け目やひげの剃り方などを職員が把握し、介助が必要になった場合でもその人のこだわりを大切にして支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嫌いなものの献立の時は別の料理をお出ししている。おかずの盛り付けや後片付けを毎日入居者と一緒に行っている。	献立を、利用者の意向に沿って考え、利用者とともに食材の買い物・調理を行うなど、好みに応ずるのみならず、利用者の役割の発揮など多面的な取り組みを実践している。日によっては、予定のメニューを利用者の希望により急遽変更することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分摂取量を記入し，栄養状態の把握をしている。摂取量が少ない方には，食べられるもの（好きなもの）を随時用意し，食事の時間に限らず，食べられるときに食べていただいている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアにご自分で気づかれるよう，洗面台に歯磨きセットを置いている。必要な方には訪問歯科に来ていただき口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>リハビリパンツを使用しておられた方も布パンツに変えたり，必要以上にトイレの声掛けはせず，本人のサインをもとに，トイレへお連れしたりしている。</p>	<p>排泄記録の活用や，利用者個々のサインを読み取るなど，排泄のアセスメントの工夫により，トイレでの排泄の実現に取り組み，極力オムツを使わない支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘がちな方の水分摂取量の把握や，職員による腹部マッサージを行っている。一緒にお茶を飲んだり，散歩をしたりしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的な時間はあるが，必ずではなくご本人の意向に任せている。</p>	<p>基本的には入浴時間を設定しているが，利用者の意向に沿ったタイミングでの入浴を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	朝はご本人が起きたいと思う時間まで休んでいただいている。一人一人の生活習慣を大切にしている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	症状の変化については随時、医師に相談し、その都度薬についても検討をいただいている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	掃除や洗濯、料理などの家事をしていただいたり、歌が好きな方には自室でカラオケなどをいただいている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	予定になくても散歩や買い物に行きたいという声があれば、その時にすぐに行くようにしている。生まれ故郷である他県へもご家族の協力のもと一緒に帰り、姉妹との再会をしている。	利用者が、急な外出を希望した際には、出来る限りその時に外出支援したり、遠方の墓参り、家族や地域の人びと連携し計画的な支援のもと最終的には利用者一人での外出を実現するなど、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	個人で財布を持っている方もおられ、自由に買い物をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使ってもらっている。ご家族から電話がかかってきた時も、ご本人に代わってお話をいただいている。希望者には年賀状や手紙と一緒に書く等の支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔を保つようにし、心地よく使用していただけるよう努めている。入居者と協力しながら一緒に掃除をしたり季節の飾りつけなどを行っている。	居間・浴室・トイレの広さは十分確保されており、明るく清潔な環境が保たれている。特に、居間からウッドデッキそして菜園へと続く環境は、開放的かつ落ち着いた雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用のリビングには一人でゆったり座れるソファや気の合った者同士で座れる三人掛けのソファを置いている。リビングのテーブルは入居者同士の人間関係を考慮した配置になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居する前の生活や部屋の雰囲気を継続できるよう、住み慣れた家の自室を見せていただき、家具の配置や干している服など細かなところまで再現したりしている。	施設になじめない利用者には、使い慣れたものや好みのものを居室に配置したり、頻回に自宅に帰る利用者には、逆に自宅の環境をそのままにするなど、利用者の特性に応じた生活の支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者が洗濯物を干せるように、洗濯場にたこ足の物干しを引っかけられるように工夫している。自室やトイレがわかるように表札をつけている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 みのりグループホーム川内

作成日 平成27年4月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	人材を育てる仕組み作りができていない。	中堅職員の育成 新人職員を指導できる 人材の確保	内部研修 指導方法（伝え方）や介護観の共有などを行う 外部研修への参加	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。